

令和3年度泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

第1回事業評価委員会 会議録要旨

開催日時	令和3年7月16日（金）午後6時30分～8時30分
開催場所	泉佐野市役所5階 第一会議室
案件	1 開会 2 委員の紹介 3 事務局の紹介 4 議 事 （1）泉佐野市の状況について（報告） （2）令和2年度実施事業の進捗状況・評価・検証について （3）今後の予定について （4）その他 5 閉会
委員出席者	吉村委員長 東副委員長 金野委員 栗本委員 高山委員 鉄谷委員 中矢委員
事務局出席者	北川政策監（兼）市長公室長 福井政策推進課長 田端政策推進課長代理 出原政策推進課主任
創生本部の幹事	奥教育長 松下政策推進担当理事 中平政策監兼成長戦略室長 家治政策監兼都市整備部長 長尾政策監兼生活産業部長 西納まちの活性化担当理事 堀口郷土芸能担当理事 竹内政策監兼健康福祉部長 古谷こども部長 榊原総合住宅政策担当理事 河野中期財政運営管理担当理事

配付資料

- 【資料1】 泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議・事業評価委員会委員名簿
- 【資料2】 泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議・事業評価委員会設置要綱
- 【資料3-1】 2020年（令和2年）国勢調査結果概要（速報値）
- 【資料3-2】 令和2年国勢調査 大阪府の人口及び世帯数（速報）
- 【資料3-3】 令和2年国勢調査 人口速報集計 結果の要約
- 【資料4】 地方創生交付金 令和2年度活用実績及び令和3年度申請状況
- 【資料5】 令和2年度実施事業評価一覧表
- 【資料6】 PDCAサイクル 進捗管理シート

《開会の辞》

《委員・事務局・幹事紹介》

《委員長・副委員長の紹介》

《資料確認》

《本会議の設置根拠や会議運営にあたっての諸事項説明》

事務局： 只今の説明について、ご意見、ご質問等はあるか。

《なし》

続いて、次第4の議事に入る。ここからの進行については、先ほども申し上げたとおり、吉村委員長に議長をお願いしたいと思う。吉村委員長、よろしく願います。

委員長： 委員長にご指名いただきました吉村です。どうぞよろしく願います。

大変お忙しい中、またコロナの問題で何かとご不便が多い中、お集まりいただき感謝する。アフターコロナにつながるようなご意見等々賜ればと考えているので、どうぞよろしく願います。

それでは、早速ですが議事に入らせて頂く。次第の4議事の(1)泉佐野市の状況について、事務局の方からご説明をお願いします。

事務局： 《(1)泉佐野市の状況について報告》

それでは、(1)泉佐野市の状況について、総合戦略には全国的に進む人口減少に歯止めをかけるという目的があるので、泉佐野市の人口の状況等はどうかを、まずご説明する。

資料3-1をご覧頂きたい。令和2年に実施した国勢調査について、先月6月25日に速報値の発表があった。本市の国勢調査人口は、令和2年10月1日現在で100,182人、世帯数が43,767世帯となり、前回の平成27年国勢調査人口と比べて784人の減となった。人口増減率は $\Delta 0.78\%$ で、前回の 0.16% 増からマイナスに転じたものの、それでも大阪府内43市町村では13番目に高い数値であることから、「なんとか踏みとどまっている」状況である。

なお、府内の市町村の状況については【資料3-2】を、また都道府県の状況については【資料3-3】をご覧いただきたい。時間の関係上、詳細の説明は割愛するが、1点だけ【資料3-3】の総務省資料の2ページをご覧頂きたい。図II-2にもあるとおり、国の総合戦略にも掲げられていた「東京一極集中の是正」は、やはり成し遂げられていないことがわかる結果となっている。

一方、本年6月に公表された厚生労働省の令和2年人口動態統計月報年計によると、出生数は過去最少、自然増減数は過去最大の減少幅、合計特殊出生率は $1.34(\Delta 0.02)$ ポイントで5年連続低下といった状況であった。

また大阪府下では、合計特殊出生率が 1.30 と 0.01 ポイント低下している状況である。

泉佐野市の人口の状況は先ほど国勢調査に基づきご報告したが、直近の状況は、全国的に人口減少が進んでいるなか、本市の場合も人口が減という状況になっている。やはり、全国的な傾向と同様自然減が増えている一方で、世帯数が増えているのは、閑空関連事業所に就労されている外国人を含む単身世帯や大学生等の単身世帯が増えていることが主な要因であると考えている。中でも外国人人口については、本市の場合は、交流人口ではなく定住人口として見ており、近年の外国人人口の増加の流れが一転し、コロナ禍では減少となったが、ポストコロナに向けて再び外国人人口は増加するものと考えている。人口の状況は以上のとおりである。

それでは、資料4の1枚目・2枚目をご覧頂きたい。

地方創生に伴う国の財政支援である地方創生交付金の令和2年度の活用実績等についてご報告する。

まず表の見方については表の左上に交付金の種類を記載しており、この交付金を活用充当した各事業を総合戦略に掲げた4つの基本目標ごとに記載している。表の左側から当該事業の担当課名、事業名、事業概要、決算額、決算額の中の交付金充当額、市の負担となる一般財源額、事業開始年月、事業完了年月、そして参考として、当該事業の進捗管理シートを資料6で綴っているのので、そのページ数を、備考欄には予算計上時期を記載している。

それでは、「地方創生推進交付金」の活用状況について、簡単にご説明する。平成28年度早々に、地方創生の深化に向けた総額1,000億円を予算規模とする「地方創生推進交付金」が新設され、現在に至っている。この交付金の特徴としては、事業期間は複数年度も可能とし、安定的・継続的に支援するところにある。また、2分の1補助と自立性も求められているところも特徴の1つである。令和2年度における推進交付金については、単独・広域連携事業合わせて、「エリアマネジメント活動推進事業」「関空立国デスティネーション化推進事業」「外国人受入環境整備事業」「都市と地方をつなぐ就労支援カレッジ事業」「大阪版DMO推進・連携事業」「KIX泉州ツーリズムビューロー事業」「『恋人の聖地』観光誘客連携による地域活性化」事業の7事業が交付決定された。令和2年度における交付金額は資料2ページ最下段になるが、1億5千134万2,282円となっている。

続いて、資料3ページから6ページをご覧顶きたい。

令和3年度における交付金の申請状況について、平成30年度に地方創生推進交付金対象事業として認められた事業は、事業期間を複数年度としていることから、4年目の事業の実施にあたり、交付金の申請をしている。番号で言うと、資料5ページの4番の「KIX泉州ツーリズムビューロー事業」で、332万2,000円となっている。

また令和元年度に地方創生推進交付金対象事業として認められた事業として、番号で言うと資料3ページの単独分の1番の「エリアマネジメント活動推進事業」と資料5ページの広域分の5番の「関空立国デスティネーション化推進事業」がある。この2つの交付金申請額は、合計1億2千875万5千円となっている。

さらに令和2年度から新たに交付金の申請をしているものとして、番号で言うと資料4ページの単独分の3番の「外国人受入環境整備事業」と資料6ページの広域分の6番の「『恋人の聖地』観光誘客連携による地域活性化事業」がある。この2つの交付金申請額は、合計2千569万8千円となっている。

最後に令和3年度から新たに交付金の申請をしているものとして、番号で言うと資料4ページの単独分の2番の「新たな生活様式推進事業」がある。この交付金申請額は3千587万5千円となっている。

以上、単独分3つで8千576万2,000円、広域分3つで1億788万8,000円でとなっており、6つの事業の合計が6ページの最下段にある1億9千365万円となっている。

なお、この地方創生交付金については、今後も交付金や基金の活用も含めて、財源の確保に努めていながら、地方創生に向けた取り組みを行っていきたいと考えている。報告は以上。

委員長： 昨年実施された国勢調査の人口や交付金などのご報告でしたが、何かご意見、ご質問等はないか。
《なし》

それでは次に(2)令和2年度実施事業の進捗状況・評価・検証について、先に資料等について

事務局から説明を受けた後、検証方法と進め方について、ご意見を頂戴したい。それでは、事務局の方からの説明をお願いしたい。

事務局：《（２）令和２年度実施事業の進捗状況・評価・検証について説明》

事業評価委員会のメインとなる令和２年度実施事業の進捗状況・評価・検証についてだが、資料５と資料６を基にして、評価等をしていただくことになる。

まず、資料５をご覧ください。

令和２年度実施事業評価一覧表として、総合戦略に掲げた全事業の評価一覧表で、４つの基本目標ごとに、それぞれの事業を記載している。表の左側から、番号、具体的な施策及び事業名、平成２７年度から令和元年度までの評価、令和２年度の市の評価、委員会評価、コメント、そして当該事業の進捗管理シートを、次にご説明させていただき資料６に綴っているので、そのページ数を記載している。

なお市の評価については、例年と違う部分があるので、ここで説明させていただく。

令和２年度はコロナ禍であったことから、各種事業がその影響を大なり小なり受けている状況を鑑み、評価については、一定の調整をかけている。その調整をかけた事業は、資料５の評価一覧表の「令和２年市評価」欄にピンク若しくは水色の網掛けをおこなっている。

まずピンクの箇所の事業だが、コロナ禍で事業や調査の完全な中止により、事業に係る目標事項やそのＫＰＩについての数値などが測定できないものである。

このピンクの箇所でも２つパターンがあり、１つはＫＰＩが単年度評価のもので（例：５６番の「泉佐野市の未来を創る教育事業」での、全国学力・学習調査など）、測定不能という判断で、「Ａ～Ｅ」ではなくピンク色の「バー」表記としている。

また、もう１つはＫＰＩが累計で評価するもので（例：６３番の「婚活イベント」でのイベントやセミナーなど）、こちらは前年度の評価をスライドさせている。

次に水色の箇所の事業だが、コロナ禍の影響で事業やイベントの一部中止により、事業に係る目標事項やそのＫＰＩについての数値が大幅に減少したもの（例：福祉・保育系の事業 ４２番の「地区福祉活動の支援」での子育てサロン実施箇所や開催回数）、あるいは、コロナ禍の影響によりインバウンドの減で、その数値が大幅に減少したもの（例：観光系の事業 ２０番の「観光振興事業」でのインバウンド観光客数や外国人延べ宿泊者数）である。

この水色の箇所については、『「コロナがなかったとして」の仮定に基づく評価が適切ではないこと』、また「仮定をすることで、仮定設定のバイアスについて、そのバイアスのかけかたも統一性を持たすことは難しい」ことから、かなり厳しい、シビアな評価になるが、出された数値そのもので判断・評価をしている。

この調整を踏まえて、資料２枚目の３ページの集計になるが、評価はＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・ー（ピンク色のバー）の６段階評価とし、一番評価が高いのはＡ評価で「目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する」で、反対に一番評価が低いのはＥ評価で「目標値または事業自体の抜本的見直しを要する」とし、更に「ピンク色のバー」として測定不能を設けている。その集計は、Ａ評価が７事業、Ｂ評価が一番多く３９事業、Ｃ評価が１８事業、Ｄ評価が４事業、Ｅ評価がなし、測定不能が５事業で、合計７３事業が今回の評価対象事業数となっている。

なお前年度から事業が２つ増えているが、これは令和２年度開始の事業が２つあったことが理由である。

一覧表では一番左側に事業ごとに番号を記載しており、その番号が最終８４までとなっているが、

この一覧表では全部で 73 事業が記載されている。この 84 と 73 の差の理由については 2 点ある。まず 1 点目として、令和 2 年度までに 8 つの事業が終了したこと等によるものである。次に 2 点目として、事業によっては、複数の基本目標や複数の施策に該当する事業があるため、その場合は基本的には再掲として挙げていることによるものである。例えば、資料の 1 枚目に記載の基本目標①の 2 番の「泉佐野産（もん）普及促進事業」を例に挙げると、この事業は、基本目標②の 24 番にも該当している。本来なら、2 番で評価すれば、24 番は同じ事業なので評価対象から省くことになるので、その分だけ評価対象事業が減ることになる。このような事業が 3 事業ある。この 8+3 の 11 事業が、84 業と 73 事業の差となっている。少しややこしいと思うが、よろしく願いしたい。

また、4 番や 34 番、63 番の事業については、備考欄にもあるように、平成 28 年度から実施した事業であるので、平成 27 年度評価欄には色なしの「バー」を入れている。同様に、この 6 年間で途中スタートした事業については、その前年度以前の評価欄には色なしの「バー」を入れている。従って、これら事業は、総合戦略の冊子には記載していないが、実施にあたり、総合戦略に掲げている基本目標や基本的方向、具体的施策に該当するように位置づけをし、新たに K P I も設定している。

あと、一覧表の委員会評価及びコメント欄については、資料 6 の進捗管理シートでの委員会評価の結果を記入できるようにしており、委員会としてのコメントがある場合は○印を記入するようにしている。

次に、資料 6 をご覧いただきたい。P D C A サイクルの進捗管理シートを事業ごとに作成したものである。表紙をめくっていただき、シートの説明をさせていただくと、まず上段の表では、基本目標、基本的方向、具体的施策、事業名、事業概要を、中段の表では進捗状況として、目標事項や K P I（重要業績評価指標）、現状値を記載している。そこへ平成 27 年度～令和 2 年度の数値とその達成率を記入しており、この令和 2 年度の実績が評価の判断材料のひとつとなる。

ここで、少し達成率について補足説明させていただく。事業評価は、事業内容などの評価に加え達成率も勘案して事業全体を評価することになると思うが、達成率については、事業によって年度毎の達成率と累計での達成率で考え方が違ってくる。累計の場合はあくまでも最終目標に対する割合となるので、単純に 1 年間の達成率とすれば 20% あれば 5 年間で 100% に達するので、進捗率とすれば、平成 27 年度からの 6 年間で 120% 以上なら、目標以上のペースという見方になるので、その点をご理解いただきたい。また、右端の備考欄には記入した数値に対する注意事項を必要に応じて記載している。

そして下段には、令和 2 年度の市の評価として担当課の評価と進捗状況のコメント、改善として令和 3 年度の取り組みなどのコメントを記載している。これらも評価の判断材料になるものと考えている。また、最下段には、委員会としての評価とコメントを入れる欄を設けている。

なお、目標事項や K P I は、原則、総合戦略に登載しているもののみ記載したもので、評価対象事業のすべてに記載していないので、よろしく願いしたい。

また、各シートの右下にはページ数を記載しており、このページ数は先ほどの資料 5 に記載しているページ数と連動している。また、シートは全部で 72 ページあり、さきほどの評価対象事業数の 73 事業と違うのは、資料 6 の 12 ページのシートをご覧いただきたい。このシートの上段の上から 4 段目の事業名をみると、住宅総合助成事業と空き家バンク制度の 2 事業を 1 枚のシートに一括して記載しているためである。

以上、これらの資料を基に、各委員に評価いただくことになるので、よろしく願いしたい。

委員長：何か他にご質問はないか。《なし》

それでは、評価の進め方について、私の方からご提案をさせていただきたい。これから、1つ1つの事業について評価する訳だが、時間的な制約もあるので、基本的には資料を事前にお読みいただいているという前提で、個別の事業については、事務局から補足説明が必要なものだけ説明して頂くということにしたい。そして、評価の方法であるが、市の自己評価に対して、特に皆さまのご意見がない場合には、委員会としては自己評価どおりとさせていただきたい。ただ、市の自己評価と異なる評価を委員会でする場合には、委員会として、その判断理由のコメントを記すということにしたい。以上のような評価の仕方では進めさせていただいてよろしいか。《なし》

では、その形で進めさせていただく。それでは、評価に入らせて頂くが、4つの基本目標がございますので、目標ごとに分けて、評価していきたい。それでは、まず、基本目標①安定した雇用を創出するについて、事務局から補足説明をお願いしたい。

事務局：《基本目標①の事業について補足説明》

それでは、基本目標①に掲げる各事業の令和2年度市の評価に対する補足説明をさせていただく。なお、これからの基本目標ごとの補足説明については、各事業の市の評価がB評価である「ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。」以外の評価となった事業やB評価でも説明を要するような事業、令和2年度から実施した事業、昨年度と比べて評価が変わった事業を中心にご説明させていただく。

まず、資料5の評価一覧表の1枚目をご覧ください。

基本目標①「安定した雇用を創出する」に掲げた事業は16事業で、そのうちの11事業を評価対象とした。市の評価についてはA評価が2事業、B評価が5事業、C評価が4事業となった。

では、資料6の2ページをご覧ください。「泉佐野産（もん）普及促進事業」であるが、事業概要としては、地場野菜や魚介類を活用したオリジナルレシピを基に、6次産業化に資するレシピを商品化し、地場産品のブランド化と6次産業化の促進を行うものである。新商品の開発や様々な普及促進活動に取り組んでおり、K P Iの数値や達成率の改善に結びついたことから、市の評価としては昨年度のC評価からB評価とした。

4ページをご覧ください。「地域経済活性化プラットフォーム事業」であるが、事業概要としては、インバウンドや空き店舗対策の一環で、中心市街地での起業をめざす方への補助及び企業に関するセミナーを実施することで、地域経済の活性化を図るものである。資料5の水色のセルで示したとおり、コロナの影響を受けたこともあり、目標事項の③のK P I達成率の進捗が思わしくないことから、市の評価としてはC評価としている。

5ページをご覧ください。「エリアマネジメント活動推進事業」であるが、この事業は、「地域資源を活かした農業振興と創業支援」を具体的施策とし、令和元年度から実施している事業である。事業概要として、創業起業に繋げる支援や女性等の社会進出の支援、商店街等の消費喚起に繋げる支援を実施するものである。目標事項の3つのうち①②は順調に進んでいるが、資料5の水色のセルで示したとおり、コロナの影響を受けたこともあり、③についての進捗が思わしくなかったことから、市の評価としてはC評価としている。

6ページをご覧ください。「企業誘致奨励金事業」であるが、事業概要としては、市内に新たに事業所を建設・設置される方（企業）で、一定条件を満たす場合に奨励金を交付するものである。目標事項の①～③のK P Iが総じて目標値を下回っているが、企業が進出を希望する用地が不

足している中で、前に進む数値であったことから、市の評価としては、昨年度のC評価からB評価とした。

7ページをご覧いただきたい。「中小企業総合支援事業（再掲）」であるが、この事業の目標事項の①である支援企業数、これは「大阪府よろず支援拠点」と連携して経営相談を行った件数のことですが、K P Iの数値が目標の数値を下回っていることから、市の評価としてはC評価としている。

9ページをご覧いただきたい。「シルバー人材センター育成事業」であるが、この事業の目標事項である「会員数」及び「契約件数」の数値が令和元年度に比べて目立った上昇がないことから、令和元年度と同じC評価とした。その要因としては、65歳までの継続雇用や65歳を過ぎても同じ職場で短時間労働するケースが増えるなどで新入会員が減少していることである。一方で一昨年度から目標事項の③のK P Iに記載している「会員数に対する就業実人員である就業率」は高い率で推移しており、一定の就業マッチングはできていることから、若干評価が難しい状況となっている。

10ページをご覧いただきたい。「就労支援カレッジ事業」についてであるが、この事業は、青森県弘前市と石川県加賀市の広域連携ということで、交付金先駆的事例事業として、内閣府やマスメディアにも紹介され、注目を浴びている事業である。農業を核に、都市間連携による農業分野に従事する人材育成及び移住促進、農業就労者の増加による雇用創出を図る事業として、令和2年度は27名の就労者数を育成することができた。3つの目標事項のK P I達成率が100%以上となり、目標以上に進捗していることから、市の評価はA評価としている。なお、3ページの「就労支援カレッジ事業」の再掲ということで、詳細説明は省略するが、ほぼ同じ内容ということで、3ページの市の評価はA評価としている。

11ページをご覧いただきたい。「外国人受入環境整備事業」であるが、この事業は、「人材育成・雇用機会の拡充」を具体的施策とし、令和2年度から実施している事業である。事業概要として、外国人材に対してのワンストップ相談窓口の設置、優良な外国人材の確保・育成を通じた雇用マッチング、地域社会の交流支援などを実施するものである。目標事項については、令和2年度は当初より活動主体となる団体の法人化取得がメインであり、コロナ禍を踏まえての数値目標であったことも踏まえ、順調に進捗しているとの捉えから、市の評価としてはB評価としている。基本目標①の補足説明は以上。

委員長： それでは、基本目標①の各事業について、何かご意見・ご質問等はないか。

委員： 3ページの「就労支援カレッジ事業」について、目標事項やK P Iの記載がないのはなぜか。

幹事： 10ページに同じ事業が再掲されている関係で10ページに目標事項やK P Iを記載している。

委員： それでは10ページと同じ内容になると考えてよいか。

幹事： そうである。

委員： 了解した。

委員長： 他、いかがか。

委員： 6ページの「企業誘致奨励事業」について、達成率及び担当課評価の記載内容に比べて評価がB

と高いような気がするが、その理由について教えていただきたい。

幹事： 空港都市という立地上、物流拠点として進出を希望する企業が多く、広い用地が必要となり、ミスマッチングが生じている。今後、新たな産業用地の開発を検討しており、開発ができれば解決していく見込みである。

委員長： 他、いかがか。

委員： 9ページの「シルバー人材センター育成事業」について、KPIについて、「65歳以上」としてはどうか。

幹事： シルバー人材センターと事務局とも協議して、来年度以降のKPIについて検討していきたい。

委員： 65歳を超えてもシルバー人材センターの会員になれるのか。

幹事： 65歳以上の方も在籍して、様々な技術等を活かしてご活動していただいている。

委員長： 他、いかがか。

委員： さきほどの6ページの「企業誘致奨励事業」について、新たな産業用地の開発の予定はあるのか。

幹事： 大阪府と共同で、「旧泉佐野コスモポリス用地」で公園予定地の産業用地化の検討を進めており、今年度に公園予定地を産業予定地化に変換する予定である。

委員長： 他、いかがか。

委員： 11ページの「外国人受入環境整備事業」について、目標事項の実績が0人で評価がBなのはなぜか。

幹事： 元々活動の母体となる組織体制を整えていくことが主な事業目標であり、コロナ禍の中ではまずまずのところまで来ていると判断した。

委員： 了解した。

委員長： 他いかがか。《なし》

シルバー人材センターについては社会情勢の変化に応じて検討をお願いしたいと思いますが、基本目標①についてはよろしいか。それでは基本目標①の事業については、市の自己評価の通りとさせて頂きたい。

次に、基本目標の②であるが、定住魅力の強化により泉佐野市への新しい人の流れをつくるというところについて、事務局から補足説明をお願いしたい。

事務局：《基本目標②の事業について補足説明》

それでは、基本目標②に掲げる各事業に対する補足説明をさせていただきたい。

資料5の評価一覧表1枚目の下段の表をご覧ください。

基本目標②「定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる」に掲げた事業は17事業で、そのうちの14事業を評価対象とした。市の評価については、A評価が無し、B評価が8事業、C評価が3事業、D評価が3事業となった。

では、資料6の12ページをご覧ください。「住宅総合助成事業」と「空き家バンク事業」については、担当課が同じということや、この2事業は関連性もあるということで、同じシートで作成している。目標事項である①-2「住宅総合助成事業による泉佐野ポイントの付与件数」と②-2「空き家バンク登録件数」の令和2年度の数値は、令和元年度と比べると増加はしたものの、目標を下回ったため、C評価とした。

13ページをご覧ください。「市民協働型事業」について、この事業は「移住を検討している女性や移住女性のための地域交流活動の促進」を具体的施策とする事業である。

目標事項である「女性センター年間利用者数」の令和2年度数値は2,173人、KPIに対する達成率が67.2%と数値が低下したことから、市の評価は昨年度のA評価からB評価とした。これは、資料5の水色のセルで示したとおり、コロナの影響を受けたこともあり、一定期間女性センターを閉館していたことも要因の一つである。

続いて、資料5の評価一覧表の下段、基本目標②のうち、③インバウンド観光による交流人口の拡充に紐づく事業全てについて、コロナ禍の影響によるインバウンドの減で、そのKPIの数値が激減している状況であり、冒頭でもご説明したとおり、出された数値そのものでシビアな判断・評価を行い、軒並み市の評価が落ちている状況である。

なお、資料6の19ページ「閑空立国デスティネーション事業」のシートに一部誤りがあるので、ここで訂正をお願いしたい。中段の④目標事項：消費効果額の2年度の欄が2.5億円で16.7%となっているが、正しくは1.5億円で10%である。訂正のほど、よろしく願います。

また、資料6の20ページ「『恋人の聖地』観光誘客連携による地域活性化事業」は、令和2年度より開始した事業であるため、少し補足でご説明する。この事業は「インバウンド観光による交流人口の拡充」を具体的施策とするもので、NPO法人地域活性化支援センター「恋人の聖地」プロジェクトに参画する12市町の広域連携により、来訪旅行者情報共有のためのプラットフォームの整備、魅力増進やブランドの波及、共同プロモーションを実施し回遊促進と観光事業の推進への寄与をめざすものである。コロナ禍の影響はあったものの、目標事項の②③については、100%を超えたことから、B評価とした。基本目標②の補足説明は以上。

委員長： それでは、基本目標②の各事業について、ご意見・ご質問いかがか。

委員： 18ページの「KIX泉州ツーリズムビューロー事業」について、30年度から令和元年で訪日旅行者数は倍近く増えているのに対し、旅行消費額が減少しているのは通過都市となってきたためか。

幹事： 泉佐野市が旅行の最初か最後の宿泊地となっていることがあり、宿泊を伴えば消費額は増えるが、宿泊を伴わなければ委員のおっしゃるような単なる通過都市となってしまう。宿泊施設が不足していたため、ホテル建設を進めていたが、コロナ禍でストップしている状況である。

委員： 訪日旅行者数と旅行消費額の差があまりにも大きい理由は通過都市である以外にも考えられるか。

幹 事： 泉佐野市が旅行の最初の宿泊地か最後の宿泊地のどちらかで消費額が異なる。最後の宿泊地であれば帰国前に現金を使い切ってしまうと消費額も増えるが、最初の宿泊地であればなかなか消費額は増えないので、宿泊が伴う場合でも最初の宿泊地であることが多かったのではないかと推測される。

委員長： 他、いかがか。

委員： 15 ページの「観光周遊バス運行事業」について、K P I が設定されていない理由はなぜか。担当課評価の欄に記載の利用者総数を K P I として記載してもよいのではないか。

事務局： 目標事項や K P I は、原則、総合戦略に登載しているもののみ記載したもので、評価対象事業のすべてに記載していない。

委員： 了解した。

委員長： 他、いかがか。それでは、アフターコロナの時代には泉州地域にお金を落としていただく方法を考えていただくようお願いしたいということで、基本目標②の事業については、市の自己評価のとおりとさせていただきたいがよろしいか。《はい》

それでは、そのようにさせていただく。

続いて、基本目標③「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について、事務局から補足説明あればお願いをする。

事務局： 《基本目標③の事業について補足説明》

それでは、基本目標③に掲げる各事業に対する補足説明をさせていただく。

資料 5 の 1 枚目裏面をご覧ください。

基本目標③「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」に掲げた事業は 30 事業で、そのうちの 29 事業を評価対象とした。市の評価については、A 評価が 4 事業、B 評価が 18 事業、C 評価が 3 事業、測定不能が 4 事業となっている。

資料 5 の 25 ページをご覧ください。「地域就労支援事業（再掲）」についてであるが、この事業は、「若い世代の経済的安定」を具体的施策とし、就職困難者等に対し、地域就労支援事業の活用、相談、資格取得講座への誘導を行い、就労実現の支援を図るものである。目標事項の数値や達成率は、平成 27 年度の国勢調査結果を用いているため変化はないが、就労相談件数が横ばい傾向であり、目標どおりに進捗したとは言えないため、C 評価とした。

27 ページをご覧ください。「不妊治療費助成事業」についてであるが、この事業は、「妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援」を具体的施策とし、不妊・不育治療を受けた夫婦の経済的な負担を軽減するために、検査や治療に要する費用の一部を助成する事業である。目標事項の「不妊治療費助成対象出生件数」の令和 2 年度数値が 235 件と、平成 30 年度以降継続して達成率が 100% を超えたことから、A 評価とした。

32 ページをご覧ください。「地区福祉委員会活動の支援（ふれあいのまちづくり事業）」についてであるが、この事業は、地域において子育て世帯が孤立することなく、子育てに関する相談や親子の仲間づくりを目的とした子育てサロン活動の支援を行うものである。資料 5 の水色のセル

でもお示ししたとおり、コロナの影響を受け、実施箇所・実施回数ともに定期開催が中止になったこともあり、K P I の数値・達成率が減少したことから、市の評価としては昨年度の B 評価から C 評価とした。

続いて、資料 5 の評価一覧表の下段、基本目標③のうち、④児童・生徒の学力・体力の向上、キャリア教育の推進に紐づく事業について、ピンク色のセルでバー表記となっている箇所をご説明する。該当する事業は資料 6 の 43、44、45 ページになるが、それぞれの K P I について、「全国学力・学習実態調査」や「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」がコロナ禍で中止となり、単年度で評価する数値が無い状況である。従って、令和 2 年度の評価は測定不能とした。

続いて、資料 5 の評価一覧表の下段、基本目標③のうち、⑤国際交流の推進に紐づく事業について、ピンク色のセルで評価をしている箇所をご説明する。該当する事業は資料 6 の 47、48、49、50 ページになる。交流事業や研修事業がコロナ禍で中止となったが、それぞれの K P I については、累計であることから、前年度の評価をスライドさせている。

また、同じく資料 5 の評価一覧表の下段、基本目標③のうち、⑦出合いの支援に紐づく事業についても、ピンク色のセルで評価している。該当する事業は資料 6 の 53 ページになるが、こちらもイベントやセミナーがコロナ禍で中止となったが、K P I について、累計であることから、前年度の評価をスライドさせている。

続いて、資料 6 の 51 ページをご覧いただきたい。「自己啓発事業等の実施（市民対象）」ですが、この事業の目標事項である「自己啓発事業実施回数（市民）」の達成率が継続して 100%を超えていることにより、A 評価とした。

52 ページをご覧いただきたい。「セミナーや啓発事業等の実施」であるが、この事業の概要は、経営者、管理者の意識改革を目的としたセミナーや研修を開催することとし、目標事項は「セミナー等の実施回数」としている。資料 5 の水色のセルでもお示ししたとおり、コロナの影響を受け、実施回数が伸び悩み、目標事項の①の K P I 達成率の進捗が思わしくないことから、C 評価とした。基本目標③の補足説明は以上。

委員長： それでは、基本目標③の各事業について、ご意見・ご質問いかがか。

委員： 25 ページの「地域就労支援事業（再掲）」について、評価が C の割に改善策の記載内容が少ないように見受けられる。改善策についてもう少し具体的に記載してはどうか。

幹事： コロナ禍前までは人手不足で雇用率が上がってきており、相談件数は下がってきている中で、相談者は引きこもりや社会への適合が難しい方が多い。そういう方々へのきめ細やかな対応は行政では難しいこともあるので、地域若者サポートセンター等の周辺機関と連携しつつ、本格的な支援をしていきたい。

委員： 37 ページの「放課後児童対策事業」について、早い時間で終了してしまうと保護者は泉佐野界限での就職はできるが、大阪市内での就職が難しくなることもある。夜遅い時間への対応については何か考えておられるか。

幹事： 現在は一番遅い時間だと午後 7 時までであり、それ以降の時間帯について、現状は難しい。

委員： 他の市町村の状況はどうか。

幹 事： また他の市町村の状況を調べて検討してみたい。

委 員： 他の市町村がやっていないのであれば、泉佐野市が他の市町村に先駆けて取り組んでみて欲しい。

幹 事： 検討させていただく。

委 員 長： 他、いかがか。

委 員： 43～46 ページの「泉佐野まなびんぐサポート事業」、「泉佐野市の未来を創る教育事業」について、評価が「一」となっているが、ボランティア等の人材活用の実績を基に評価はしないのか。

幹 事： 全国調査の回答をK P Iとして設定しているため、それ以外の実績では評価していない。

委 員： せっかく退職教員やボランティアの先生たちに頑張らせていただいているのでその点を評価に取り入れてはどうか。

幹 事： また今後検討させていただく。

委 員 長： 他、いかがか。

委 員： 先程の「放課後児童対策事業」について、もし午後 9 時まで子どもたちを預かったとしたら、子どもたちの生活リズムが崩れてしまう恐れがあるので、学校側としては午後 7 時には家に帰るということがよいと考えている。

委 員 長： 難しいとは思いますが、そのあたりも勘案してご検討いただきたい。
他、いかがか。

委 員： 27 ページの「不妊治療費助成事業」について、この助成により出生率がどの程度上がったのか、分析はされているか。

幹 事： この不妊治療の助成が全体的な出生率に与える影響はほとんどないと思うが、K P Iを見ると年々助成を受けた出生件数が増えているということで、一定の効果はあると考えている。

委 員 長： 他、いかがか。それでは、基本目標③の事業については、今後に向けてご検討頂きたい点はあるが、評価については市の自己評価のとおりとさせていただきたい。《はい》

次に基本目標の④「時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」について、事務局から補足説明がありましたらよろしくお願ひしたい。

事 務 局： 《基本目標④の事業について補足説明》

それでは、基本目標④に掲げる各事業に対する補足説明をさせていただく。

資料 5 の 1 枚目裏面の下段から 2 枚目表面の上段をご覧ください。

基本目標④「時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」に掲げた事業は21事業で、そのうちの19事業を評価対象とした。市の評価については、A評価が1事業、B評価が8事業、C評価が8事業、D評価が1事業、測定不能が1事業となっている。

まず、資料6の54ページをご覧ください。「コミュニティバス無料化事業」についてであるが、目標事項である「コミュニティバス利用者数」の令和2年度の数値は120,984人で、K P Iに対する達成率は109.0%となった。資料5の水色のセルでもお示ししたとおり、コロナの影響を受け、K P Iである利用者数が減少したことにより、市の評価は昨年のA評価からB評価とした。

60ページの「泉佐野市少年消防クラブ員の東北被災地訪問（泉佐野市の未来を創る教育事業）」ですが、資料5の3ページにピンク色のセルでバー表記となっている。この事業もコロナ禍で被災地訪問が中止となり、単年度で評価する数値が無い状況である。従って、令和2年度の評価は測定不能とした。

続いて、資料5の3ページ、基本目標④のうち、④食育の推進に紐づく事業全てについて、水色のセルでもお示ししたとおり、コロナの影響を受けている。該当する事業は資料6の61、62、63ページになるが、講座やイベント、教室、体験の場などが実施できなかったこともあり、市の評価はC評価とした。

64ページの「泉佐野電力の運営（泉佐野電力からの電力需給）」についてであるが、目標事項①の「泉佐野電力電気供給量」が横ばい傾向であり、目標どおりに進捗したとは言えないため、昨年と同じくC評価とした。

65ページをご覧ください。「健康マイレージ事業」であるが、この事業は「高齢者の健康づくり」を具体的施策とする事業であり、健康教室への参加や特定健診・がん検診等の受診など、健康づくりへの取り組みをポイント化して地域ポイントの付与を行うもので、健康づくりへの積極的な参加促進を図るものである。目標事項である「特定健診受診率」の令和2年度数値は33.9%となっているが、27年度と比較して、あまり参加者の増加が見られないことから、C評価とした。

67ページをご覧ください。「地域健康教室事業」についてであるが、資料5の水色のセルでもお示ししたとおり、コロナの影響を受け、講座や教室が開催中止となり、K P Iである実施回数・参加人数が減少したことにより、市の評価は昨年のB評価からD評価とした。

69ページをご覧ください。「町会連合会の加入促進活動事業への補助金」であるが、「地域づくり」を具体的施策とする事業であり、目標事項である「町会加入率」の数値が年々減っていることから、C評価としたが、令和3年度についても、新規加入世帯に対する「さのぼ」ポイント付与事業など、これまでの取り組みに加え、町会・自治会へのインセンティブとして、新規加入世帯1世帯あたり5,000円の報奨金を町会・自治会へ交付する制度を創設し、加入勧奨を進めていくこととしている。

70ページをご覧ください。「泉佐野市三世代同居等支援事業」であるが、こちらも「地域づくり」を具体的施策とする事業で、市内における三世代同居等を促進することで、子どもを安心して産み育てられ、また高齢者等が安心して暮らせる健康で幸せな住環境を創るために、高齢者世帯と同居又は近居することとされた子ども世帯に対して、その費用の一部を助成するものである。目標事項である「三世代同居等支援件数」の令和2年度の数値は46.7%となっているが、前年度と同様、あまり支援件数の増加が見られないことから、C評価とした。令和3年度は条件を緩和して、申請に繋がるよう努めていくこととしている。

71ページをご覧ください。「家族介護継続支援事業」であるが、これも「地域づくり」を具体的施策とする事業で、認知症になった高齢者とその家族が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、地域でのたどしい理解を広げるものである。目標事項である「認知症サポーター数」の令和

2年度の数値は129.2%となったことから、昨年に引き続きA評価とした。

72ページをご覧いただきたい。「地区福祉活動の支援（再掲）」であるが、これも「地域づくり」を具体的施策とする事業で、地区福祉委員会が主催する高齢者や障害者等への見守り訪問活動や、孤立防止や地域での仲間づくり・介護予防等の目的で開催する交流会や高齢者サロン活動の支援を行うものである。目標事項である「個別支援活動実施世帯数」の令和2年度の数値は2,194世帯で、KPIに対する達成率は104.5%となったが、「グループ支援活動回数」の令和2年度の数値は、コロナ禍の影響もあり1,435回で、KPIに対する達成率は75.9%となったことから、市の評価は昨年のA評価からC評価とした。基本目標④の補足説明は以上。

委員長： それでは、基本目標④について、ご意見・ご質問いかがか。

委員： 62ページの「地域における食育推進」について、目標事項②「朝食を毎日食べる人の割合（小中学生）」の数値が出ていないのはなぜか。

事務局： 61、62ページ共に、食育推進計画を立てる際に令和元年に実施したアンケートをもとにKPIの数値を出しているが、それ以外にコロナの影響で啓発活動等が実施できなかったことを加味してC評価としている。

委員長： 他、いかがか。

委員： 70ページの「三世同居等支援事業」について、助成対象の条件緩和の内容を教えてください。

幹事： 近居の距離や地域等について令和3年から条件を緩和しており、状況を見ながらさらに検討していきたい。

委員長： 他、いかがか。

委員： 71ページの「認知症サポーター養成講座（家族介護継続支援事業）」について、認知症サポーターの人数は累計か？

幹事： 累計である。

委員： 令和2年度はコロナ禍で伸びが鈍化したということか？

幹事： その通りである。

委員長： 他いかがか。《なし》

それでは、基本目標④の事業については、市の自己評価のとおりとさせていただくということによろしいか。《なし》

それではそのようにさせていただきたい。

それでは、全事業①から④についての評価をさせていただいたが、全体を通じて、改めてお気づ

きの点や疑問点などはないか。《なし》

本日の評価結果は、事務局で一覧にとりまとめて、後日ご確認をお願いするというようにさせていただきます。

次に次第の（３）今後の予定について、事務局の方から説明をお願いします。

事務局：《今後の予定について説明》

今後の予定については、本日、各委員の皆様からいただいた各事業に対する評価やご意見を踏まえ、事務局の方で、評価一覧表として、まとめさせていただき、まとめたものを委員長と調整させていただいたうえで、各委員の皆様へ送付したいと考えている。そして、それぞれご確認いただき、もしご意見等があればお伺いし、最終まとめさせていただきたいと考えている。

従って、事業評価委員会については、一旦、本日の１回で終わらせていただこうと考えている。なお、国の交付金の事業報告で、事業評価について別途、開催する必要がある指示があった場合など、どうしても皆さまのご意見をいただいた方がいいということになれば、またご連絡させていただくこともあるかも知れないので、その際にはよろしくお願ひしたい。

そのほか、最終まとめた評価一覧表については、国をはじめ、９月に開催される市議会９月定例会にて報告する資料にしたいと考えている。以上。

委員長： 今後の段取りについてご説明いただいたが、こちらでよろしいか。《なし》

それではそのような段取りで進めさせていただく。

それでは次に、次第の（４）その他であるが、皆さまの方から何かあるか。《なし》

《終了》